



令和 6 年

## 第 2 回 名 寄 市 議 会 定 例 会 行 政 報 告

名 寄 市

---

---

“市民と行政との協働によるまちづくり”	1
・市民主体のまちづくりの推進	1
・交流活動の推進	2
“市民みんなが安心して健やかに暮らせるまちづくり”	4
・健康の保持増進	4
・地域医療の充実	4
・子育て支援の推進	5
・地域福祉の推進	5
“自然と調和した環境にやさしく快適で安全安心なまちづくり”	6
・循環型社会の形成	6
・消防	6
・交通安全	8
・住宅の整備	8
・上水道の整備	8
・下水道・個別排水の整備	9
・道路の整備	9
・地域公共交通	10
“地域の特性を活かしたにぎわいと活力のあるまちづくり”	11
・農業・農村の振興	11
・森林保全と林業の振興	13
・商工業の振興	14
・雇用の安定	15
・観光の振興	15
“生きる力と豊かな文化を育むまちづくり”	16
・小中学校教育の充実	16
・大学教育の充実	19
・生涯学習社会の形成	20
・生涯スポーツの振興	22
・青少年の健全育成	23
・地域文化の継承と創造	23

---

---



本日、令和6年第2回定例会の開会にあたり、これまでの主な行政事項について、その概要をご報告申し上げます。

## “市民と行政との協働によるまちづくり”

### 市民主体のまちづくりの推進

はじめに、総合計画及び地方創生について申し上げます。

「名寄市総合計画（第2次）後期基本計画」で示した重点プロジェクト、主要施策ごとに定めた成果指標（KPI）の目標値達成に向けた取組を着実に推進するため、毎年度行政評価を実施しています。

これまで実施計画事業について担当部局による1次評価を行い、その後庁内係長職を中心に構成されるワーキンググループにて評価したところであり、今後、総合計画審議会において外部評価をいただく予定です。

また、5月10日に地方創生・交流自治体連携フォーラムが群馬県ひがしあがつままち東吾妻町で開催され、東京都杉並区や福島県南相馬市など全国9市区町村長が参加し、元日に発生した能登半島地震を受け、今一度、交流自治体間での災害時における受援・支援計画について、実践を想定した意見交換が行われました。

まちづくりの理念や基本ルールを示した「名寄市自治基本条例」について、本年3月に設置した公募委員などで構成する検討委員会

ご議論をいただき、見直し検討を進めています。

また、市民アンケート実施にあたり、本市公式LINEアカウントの活用と名寄市電子地域通貨Yorocaの行政ポイントを付与することで、多くの回答をいただいています。

次に、広報・広聴事業について申し上げます。

本市に転入された方に市内公共施設等の魅力を知っていただく機会を提供するため、本市に転入された方を対象に、本市公式LINEアカウント登録で500ポイントと公共施設等スタンプラリーを達成された方に1,000ポイントの転入者向け「Yoroca・公共施設等スタンプラリー」事業を開始しました。

## **交流活動の推進**

次に、交流活動の推進について申し上げます。

山形県鶴岡市との交流事業については、なよろ産業まつり、つるおか大産業まつりへ出店のほか、少年少女交流事業での派遣・受入を行うことが決定しました。東京都杉並区との交流事業については、本年度交流自治体協定締結35周年事業として東京都杉並区に訪問するツアーを実施することが決定しました。

また、姉妹都市カナダ国カワーサレイクス市リンゼイとの交流事

業については、交換学生の受入が5年ぶりに再開されるほか、カナダ文化イベントの開催などが予定されています。台湾との交流事業については、農業青年派遣・受入事業や中学生や高校生の台湾派遣事業のほか、台湾国立<sup>ちゅうざん</sup>中山<sup>せいわん</sup>大学西湾学院交流事業などに取り組むことが決定しました。

次に、地域おこし協力隊について申し上げます。

4月1日付けで農業支援員として大塚<sup>おおつかしょう</sup>翔さん、大塚<sup>おおつかはるか</sup>遥香さん、佐藤<sup>さとうりきまる</sup>力丸さん、地域振興支援員・移住定住コーディネーターとして東口<sup>ひがしぐちあかり</sup>明香里さん、5月1日付けで地域振興支援員として阿部<sup>あべまさき</sup>真樹さんを新たに委嘱しました。

農業支援員は風連地区や智恵文地区を中心とした農業研修に、移住定住コーディネーターは市内外に暮らしの魅力を発信する取組を中心に活動し、地域振興支援員はアウトドア観光やスポーツツーリズムを推進する活動をしており、活躍を大いに期待しているところです。

また、2年間にわたり地域おこし協力隊の農業支援員として活動した西川<sup>にしかわりょう</sup>僚さんが本年から新規就農されており、今後も関係機関等と連携した支援を進めてまいります。

## “市民みんなが安心して健やかに暮らせるまちづくり”

### 健康の保持増進

次に、健康の保持増進について申し上げます。

新型コロナウイルスワクチン接種については、令和3年度から開始した特例臨時接種が、本年3月末に終了しました。この間、集団接種及び個別接種として、市内医療機関のご協力をいただき接種を希望する延べ10万817人に実施しました。

本年度以降については、個人の重症化予防により重症者を減らすことを目的に、予防接種法に基づくB類疾病の定期接種として実施することとなっており、対象者はインフルエンザワクチンの定期接種と同様に65歳以上の高齢者などとし、毎年秋冬に1回行うこととしています。

### 地域医療の充実

次に、病院事業について申し上げます。

3月14日に手術室増改修工事における増築棟の引き渡しを受け、4月から新しい手術室の運用を開始しました。これに伴い、既存手術室等の改修工事が始まり、すべての工事完了は本年10月末を予定しています。今後も当院が担う高度急性期及び救急医療の機能を維持・強化してまいります。

## 子育て支援の推進

次に、子育て支援の推進について申し上げます。

昨年 11 月に完成しました認定こども園などについては、配線工事や備品等の搬入作業を終え、3 月 29 日に南保育所の 3 歳以上の児童や多くの来賓の皆様にご出席をいただき、認定こども園「あいあい」の開園式及びこども発達支援センター「こどもらんど」の移設式を行い、4 月 1 日からオープンしました。

また、認定こども園「あいあい」においては、本年度から新たに、給食提供を希望する民間の認定こども園への給食提供を開始しました。

新施設が子育て支援の新たな拠点として、市民の皆様に愛される施設となるよう、地域や関係機関と連携した取組を進めてまいります。

## 地域福祉の推進

次に、地域福祉の推進について申し上げます。

物価高騰が長期化する中で、家計への影響が大きい低所得世帯に対し、各種給付金支給事業を実施しました。

「住民税非課税世帯給付金」については、3,584 世帯に 2 億 5,088 万円を支給、「住民税均等割のみ課税世帯給付金」については、679

世帯に 6,790 万円を支給しました。

また、「子育て世帯等給付金」については、住民税非課税世帯及び均等割のみ課税世帯を対象に、157 世帯 260 人に 1,300 万円を支給し、低所得世帯を支援しました。

## “自然と調和した環境にやさしく快適で安全安心なまちづくり”

### 循環型社会の形成

次に、循環型社会の形成について申し上げます。

本年 3 月 4 日に、本市、美深町、下川町、音威子府村の 4 自治体とサントリーグループ様、株式会社もっかいトラスト様による、ペットボトルの水平リサイクルに関する連携協定を締結しました。

高齢や障がいなどにより、町内会等が管理するごみステーションまで、家庭ごみを出すことが困難な方に対する支援として、週 1 回、家庭ごみを戸別収集する「ふれあい収集」を 5 月 1 日から、風連地区において開始しました。

### 消防

次に、消防事業について申し上げます。

令和 5 年中の火災及び救急・救助出動状況については、火災出動件数は 5 件で、前年比 1 件の減、死者が 1 人、負傷者が 2 人発生し

ています。

火災種別では、建物火災が4件、車両火災が1件となりました。

また、救急出動件数は、1,322件で前年比96件の増、主な事故種別は急病の950件で全体の約7割を占めています。

このほか、ドクターヘリの要請は1件、ドクターカーの要請は4件となりました。

救助出動件数は、48件で前年比2件の増、主な事故種別は、交通事故が30件で救助出動の約6割を占めています。

消防施設については、風連出張所で27年間運用されていた消防車両を更新し、消防力の安定、強化を図ってまいります。

救急業務については、救急救命士21人を配置し、名寄市立総合病院などで研修を実施し、市民の皆様の安全安心な救急支援の向上に努めてまいります。

地域防災の要である消防団の活動については、昨年6月に上川地方支部名寄分会総合訓練大会が4年ぶりに本市で開催され、各種表彰、小型ポンプ実戦訓練など日頃の訓練の成果を披露しました。

住宅防火対策の推進については、住宅用火災警報器の設置率向上と維持管理について、住民に広く周知し、防火対策の啓発に努めてまいります。

## **交通安全**

次に、交通安全対策について申し上げます。

4月6日から15日までを「春の全国交通安全運動」として、関係団体や地域住民による街頭啓発、早朝パトロールやパトライト作戦を実施しました。

4月10日の「交通事故死ゼロを目指す日」には、西條名寄店前において「旗の波作戦」を実施し、関係団体から282人が参加のもと、沿線通行車両や市民の皆様に交通事故防止を呼びかけました。

## **住宅の整備**

次に、住宅の整備について申し上げます。

公営住宅の整備については、瑞生団地住棟建設及び解体工事のほか、栄町55団地解体工事及び緑丘第1団地改修工事に着手しています。

民間住宅の整備については、戸建て住宅などの耐震化を支援する耐震診断及び耐震改修補助事業の受付を開始しています。

## **上水道の整備**

次に、水道事業について申し上げます。

老朽管更新工事については、南10丁目右仲通ほか3路線、浄水場

設備工事については、智恵文中央浄水場ほか井戸改修工事、水道量水器取替工事については、5工区に分けてそれぞれ着工しています。

また、有収率向上に向け漏水調査業務に着手しています。

## 下水道・個別排水の整備

次に、下水道・個別排水事業について申し上げます。

公共下水道施設整備については、名寄下水終末処理場の電気設備更新工事、個別排水処理施設整備事業については、1基の合併浄化槽設置工事に着手しています。

## 道路の整備

次に、道路の整備について申し上げます。

市道の整備については、北3丁目通、南10丁目右仲通<sup>みぎ</sup>、西3条仲通、南2丁目通の改良舗装工事に着工し、新規路線の東2条通と南西5条仲通の実施設計に着手しています。

次に、橋梁の整備について申し上げます。

橋梁の整備については、風連駅跨線橋<sup>ふうれんえきこせんきょう</sup>の修繕工事、東恵橋<sup>とうけいばし</sup>ほか55橋の近接目視点検業務、東橋<sup>あずまばし</sup>ほか162橋の計画策定業務に着手しています。

次に、除排雪事業について申し上げます。

昨年度は、3月末までの累積降雪量が511センチメートル、最大積雪深は93センチメートルとなり、令和4年度との比較では、累積降雪量で24センチメートル、最大積雪深では25センチメートル少なくなりました。

除雪作業については、市街地・郊外地路線を合わせて436キロメートル実施し、出動日数は143日となり、令和4年度と比較して名寄、風連の両地区で13日の減となりました。

排雪作業については、カット排雪を市街地生活路線において1回、積込運搬排雪を幹線道路及び通学路において1回から2回、交差点排雪を272か所実施し、路線の維持・確保に努めてきたところです。

また、排雪ダンプ助成事業については、利用総台数2,545台で、例年よりも少ない利用となりました。

引き続き、効率的で効果的な除排雪体制の確立を目指し、除排雪のあり方について研究を進めるとともに、市道・私道わたくしどう除排雪助成事業や排雪ダンプ助成事業の継続など、除排雪水準の維持・向上が図られるよう取り組んでまいります。

## 地域公共交通

次に、地域公共交通について申し上げます。

国から北海道旅客鉄道株式会社への経営支援策として、令和6年度から8年度の3年間で1,092億円の支援と、令和8年度末までに抜本的な事業改善方策を取りまとめるよう新たな監督命令が発出されました。

本市では、宗谷本線活性化推進協議会を中心に沿線自治体と連携・協力した取組を進めてまいります。

## “地域の特性を活かしたにぎわいと活力のあるまちづくり”

### 農業・農村の振興

次に、農業・農村の振興について申し上げます。

基盤整備については、道営事業の「ちえぶん地区」において、春の発注が終了し、整地工や暗渠排水工事が実施されています。

また、<sup>ほうとく</sup>報徳川の改修については、7月以降の工事予定となっています。

次に、主要農作物の生育状況などについて申し上げます。

今年の融雪期は4月5日で平年より3日早くなりました。

5月15日現在、<sup>はしゆ</sup>水稻の播種作業は順調に進み、生育については、平年並みで推移しています。

畑作物では、秋小麦・春小麦の生育は平年より早く推移し、大豆、

てん菜・馬鈴薯の播種・移植作業についても平年より早く進んでいる状況です。

次に、米政策について申し上げます。

令和6年産米の生産の目安については、昨年度より837トン増加し、うるち米1,555トン、もち米1万1,566トンとされ、作付面積に換算すると、うるち米266ヘクタール、もち米1,980ヘクタールとなりました。

次に、農業振興センターについて申し上げます。

土壌診断事業では、昨年度で3,151点の実績となり圃場の土壌改良に活用されており、実証試験・展示事業では、化学肥料低減に向けた堆肥等の施肥比較試験を進めています。

薬用作物振興では、企業版ふるさと納税を活用した薬用作物での病害虫による減収に対応する培養苗育成の取組について引き続き進めてまいります。

また、振興センターで生産したアスパラガスの大苗の配布を始めしており、引き続き生産面積の維持拡大を促進してまいります。

次に、有害鳥獣対策について申し上げます。

農業被害の防止対策については、名寄市有害鳥獣農業被害防止対策協議会を中心としてエゾシカ駆除を4月1日から開始し、駆除頭数については5月31日現在で246頭となっています。また、3月25日に名寄市農業振興対策協議会主催で、アライグマ捕獲技術講習会を開催し、受講者83人が防除従事者として追加されました。

ヒグマ対策については、猟友会と連携し3月9日から人里への出没抑制を目的とした春期管理捕獲として、山林内での足跡の追跡調査などを延べ17回行いました。捕獲には至りませんでした。山林にハンターが入ることで、ヒグマの人への警戒心を高める効果が期待されるところです。

名寄市ヒグマ駆除隊については、4月1日付けで14人の隊員に委嘱を行い、本年度の活動に従事いただいております。引き続き、関係機関・団体と連携し、被害防止に取り組んでまいります。

また、6月4日には、本市、旭川方面名寄警察署、名寄自動車学校の3者による、市街地周辺でのヒグマ出没時のドローン活用に関する協定を締結しました。機材と高い操縦技能を持つ名寄自動車学校の協力により、ヒグマの監視等の対策強化が期待されるところです。

## **森林保全と林業の振興**

次に、森林保全と林業の振興について申し上げます。

本年度の市有林、私<sup>わたくしゆうりん</sup>有林の造林、間伐などの森林整備に対する国の補助金は、要望額に対し90パーセントの内示額となりました。

減額分の森林整備については、森林環境譲与税の活用による市単独事業として取り組んでまいります。

## 商工業の振興

次に、商工業の振興について申し上げます。

名寄市電子地域通貨Y o r o c aについては、開始から6か月の稼働となる5月末日現在の実績として、チャージ金額は1億9,500万円、支払額は電子マネー及び付与されたポイント分も合わせて2億8,900万円相当額が市内加盟店で利用されました。

また、Y o r o c aポイント1万円相当分の給付を行った物価高騰対策臨時生活支援事業については、3月4日から4月12日の間に1万2,600世帯へ給付を行い、物価高騰の影響を受けた市民生活の安定と市内経済の活性化が図られたところです。

今後も、地域内での経済循環の促進と市民の皆様に最も身近に感じてもらえる地域DX・デジタルツールとして、運営主体である名寄商工会議所、風連商工会と連携し振興してまいります。

王子マテリア株式会社名寄工場敷地利活用については、株式会社まちづくり名寄において土地・倉庫の賃貸契約が締結され、夏以降の

操業を目指し、現在改修工事が進められています。本市では、企業立地促進条例の特例に関する条例に基づき、支援に取り組んでまいります。

## **雇用の安定**

次に、労働関係について申し上げます。

ハローワークなよろ管内の雇用情勢は、求職者に対し求人数が上回る状況が継続しており、本市においても人材確保は喫緊の課題となっています。本年度から新たに、市内就業の促進と企業の人材確保の取組を後押しする、若者地元定着奨学金返済支援助成金の運用を開始するなど、人材の確保・育成に係る支援制度の利用促進に向け、さらなる周知に努めていくとともに、経済団体や各産業界、金融機関等と意見交換を行い、人材確保につなげるための施策を推進してまいります。

## **観光の振興**

次に、観光の振興について申し上げます。

本市においても、インバウンドを含む交流人口が回復傾向にあり、名寄ピヤシリスキー場においても、令和4年度から開設したツリーランコースをはじめ多くのインバウンド利用がありました。今後の

さらなる利用者及び観光消費額の拡大に向けて、受け入れ態勢の整備を進めるとともに、スマートゲート導入に伴い、より正確な情報に基づく、利用者ニーズに合わせたサービスの提供を目指してまいります。

イベントについては、5月26日に商店街を会場にアスパラまつりが開催され、市内外より多くの方に来場いただきました。

また、オール名寄ロケで撮影された短編映画「運命屋」は、6月9日に市民文化センターENRAYホールで初回上映イベントが開催されました。

今後、短編映画祭への出展、全国のショートフィルムシアターでの上映、インターネット配信などが計画されており、映画による情報発信と連携し観光情報の発信を行ってまいります。

今後、本市の地域資源である天塩川や雪質日本一のピヤシリスキー場といった大自然をフィールドとしたアウトドアガイドの育成を図り、交流人口の拡大による地域経済の活性化を目指してまいります。

## **“生きる力と豊かな文化を育むまちづくり”**

### **小中学校教育の充実**

次に、小中学校教育の充実について申し上げます。

4月5日に、小中一貫教育を行う市内初の義務教育学校「智恵文小中学校」の開校式を行いました。開校式では、保護者や地域の皆様のご出席のもと、開校宣言や新たな校章が記された校旗の授与などを行いました。

また、同日には、市内小中学校及び義務教育学校の入学式が行われ、小学校・義務教育学校前期課程では192人、中学校・義務教育学校後期課程では189人の児童生徒が入学し、本年度の教育活動が始まりました。

生きる力を育てる教育の推進として、確かな学力を育てる教育の推進については、4月18日に本市の小学校6年生と中学校3年生が令和6年度全国学力・学習状況調査に参加しました。各学校においては、調査終了後、その結果の分析を行った上で、学習指導の改善策や児童生徒への育成を目指す資質・能力を明確にした授業づくりを講じ、学力向上の取組をさらに進めてまいります。

4月16日には、名寄市教育研究所定期総会を開催し、令和5年度活動報告、令和6年度運営計画などについて協議するとともに、名寄市教育改善プロジェクト委員会の本年度の取組について説明を行いました。

また、5月15日には、第1回目の教育改善プロジェクト委員会を開催し、全体会議及び教育経営、教育研究、教育指導の3つの研究

グループ会議を行いました。それぞれのグループでは、学校運営協議会の推進や、ICTの効果的な活用、不登校対策など、学校教育の今日的な課題に適切に対応するための様々な取組を進めてまいります。

健やかな体を育てる教育の推進として、学校給食については、4月5日から給食の提供を開始し、5月30日には旬の地場産食材であるアスパラを使用した給食を提供しました。

また、5月27日に開催された名寄市学校給食センター運営委員会では、本年度の事業計画などについて協議が行われ、使用する食材については、安全安心な食材の選定に細心の注意を払うとともに、地場産の食材を積極的に取り入れ、児童生徒が喜ぶ給食の提供に取り組んでいくことが確認されました。

社会の変化や多様な教育ニーズへの対応として、特別支援教育の推進については、5月9日に第1回目の名寄市特別支援連携協議会と名寄市特別支援教育専門家チーム委員会を開催しました。

特別支援連携協議会では、個に応じたきめ細かな支援方法に係る研修のあり方などについて、また、特別支援教育専門家チーム委員会では、専門家チームの申請や報告方法、専門家チーム委員の巡回相談などについて協議しました。

## 大学教育の充実

次に、名寄市立大学について申し上げます。

令和5年度卒業式を3月19日に行い、保健福祉学部栄養学科42人、看護学科46人、社会福祉学科51人、社会保育学科50人、合計189人が卒業しました。

卒業生の4月1日現在の就職率は、保健福祉学部栄養学科、看護学科及び社会福祉学科が100パーセント、社会保育学科が98.0パーセントとなり、全体で99.4パーセントと高い就職率となりました。

なお、地元定着化推進事業により、14人の学生が本市内にて就業しています。

国家試験の結果については、管理栄養士は31人が合格し、合格率73.8パーセントで新卒の全国平均80.4パーセントを下回ったものの、看護師は受験者45人全員、保健師も受験者14人全員が合格し、それぞれ新卒の全国平均93.2パーセント、97.7パーセントを上回りました。社会福祉士は46人が合格し、合格率92.0パーセントで新卒の全国平均76.8パーセントを上回りました。

また、精神保健福祉士は13人全員が合格し、合格率100パーセントで、新卒の全国平均82.5パーセントを上回りました。

令和6年度入学式については、4月3日に行われ、栄養学科43人、看護学科58人、社会福祉学科45人、社会保育学科50人の保健福祉

学部全体では 196 人の新入学生を迎えました。

今後も、複雑化・多様化する保健・医療・福祉・保育の現場に対応できる豊かな人間性と専門性を備えた職業人を育て、社会に送り出せるよう取り組んでまいります。

## **生涯学習社会の形成**

次に、生涯学習社会の形成について申し上げます。

名寄ピヤシリ大学については、本年度から、これまでの学年制から単年度の講座制にするとともに、年齢制限を撤廃するなど、運営内容を一新しました。4月23日に開講式を行い、在校生6人に受講生56人が新たな仲間として加わり、新しい体制での学びがスタートしました。

また、智恵文友朋学級は11人の受講生を迎え、4月25日に開講式を、風連瑞生大学は新入生8人を迎え、4月26日に入学式を行いました。

次に、市立図書館について申し上げます。

4月23日から5月12日までの「こどもの読書週間」の企画として、4月27日に「図書館はじめてツアー」を実施し、施設見学や紙芝居の実演など、来館のきっかけづくりを行いました。

また、5月11日に「おとなのための読み聞かせ会」を開催し、絵本の読み聞かせやパネル上で展開する人形劇などを実演しました。

次に、北国博物館について申し上げます。

4月27日から開催したゴールデンウィーク企画「博物館で遊ぼう！」では、10日間で延べ1,673人の入館者があり、多くの家族連れで賑わいました。期間中は、名寄市立大学と北海道名寄高等学校の学生ボランティア、名寄自動車学校に協力いただき、木製玩具、リサイクル遊具などの体験や、ヤギ、ウサギなどの動物とのふれあいを楽しんでいただきました。

5月から実施している「小さな自然観察クラブ」については、小学校4年生から6年生まで16人の応募がありました。全7回のメニューで、四季を通して自然とのふれあいや体験を提供する取組を行っています。

次に、なよろ市立天文台について申し上げます。

4月26日から5月6日まで「ピリカウィーク」として、北海道大学のピリカ望遠鏡を使用し観望会を行いました。天候には恵まれませんでしたが、観望会には296人が参加し、雲間から天体を見ただくことができました。

5月11日に北日本の広い範囲で低緯度オーロラが観測されました。オーロラを撮影した画像を報道機関に提供したほか、インターネットによる映像の配信も行い、映像を提供したほかの配信サイトも合わせると、天文台が撮影した映像は160万回以上再生されました。

## **生涯スポーツの振興**

次に、生涯スポーツの振興について申し上げます。

スポーツ振興事業については、体成分分析装置等を活用した健康科学による市民健康づくり事業において、昨年度は延べ1,048人の体成分などを測定しました。本年度においても引き続きデータを収集するとともに、これらデータを活用し働き世代の健康増進や運動の習慣化につながるよう努めてまいります。

また、てくTECH活動事業については、達成ポイントの見直しや、年度ごとに登録する仕組みに加え、65歳以上の方へ新たなコースを用意するなどのシステム改修を経て、6月3日から再スタートしています。

スポーツ合宿推進事業については、2月10日から12日の3日間の日程で、本市で初となるスペシャルオリンピックス日本冬季ショナルゲームが多くの市民ボランティアのご協力のもと盛大に開催されました。

また、3月6日から10日の5日間の日程でJOCジュニアオリンピックカップ 2024 全日本ジュニアスキー選手権大会兼全日本小・中学生選抜スキー大会を開催し、全国から小・中・高校生 589 人、延べ 1,085 人のエントリーをいただき、熱戦が繰り広げられたところです。

昨年度の合宿受入数は 8,768 人で、令和 4 年度比 2,303 人の増となり、経済効果においても 1 億 118 万 1,000 円、令和 4 年度比 3,367 万 4,000 円の増となりました。これらは大会開催数の増加に伴う合宿者数の増加であり、今後も、合宿誘致のみならず大会の誘致に努めてまいります。

## **青少年の健全育成**

次に、青少年の健全育成について申し上げます。

名寄市放課後子ども教室を、5月に名寄地区と風連地区において小学生を対象に開講しました。

現在、2教室合わせて17人の児童が、自ら学び考える力を身につけるため、各教室で自学自習やテーマ学習に取り組んでいます。

## **地域文化の継承と創造**

次に、地域文化の継承と創造について申し上げます。

市民文化センターE N - R A Yホールは、昨年度、主催事業を含め66事業が実施され、2万2,839人の利用がありました。

本年度は、これまでに市内のアマチュア劇団「スワンク企画」の定期公演や「ザ・クロマニヨンズ ツアー <sup>ヘイ</sup> <sup>ワンダー</sup> HEY! WONDER 2024」が開催されました。

引き続き、質の高い優れた文化芸術鑑賞の機会を提供できるよう、事業の充実に努めてまいります。

準鉄道記念物のS L排雪列車「キマロキ」は、4月17日にシート撤去作業を行い、一般公開を開始しました。土日祝日を中心に多くの家族連れや鉄道ファンがその雄姿を見学に来られています。

以上、主な行政事項について、その概要を申し上げ報告とします。